

2024 年度 さが わーるどりんぐ 事業報告

佐賀県外国にルーツを持つ生徒交流を支援する会

代表 松下 一世

当団体のミッション

佐賀県は他県に比べると、外国にルーツを持つ子どもは少なく、散財地域である。そのため、支援体制も整っているとはいいがたく、子ども集団の中においても少数であることから、勉強がわからない、いじめを受けても相談できないなど、不安や孤立感を抱えている子も少なくない。保護者もまた、日本の言語や学校文化、学校システムがわからず、困っている。その結果、自らのルーツを肯定的に捉えられない子どもたちがいる。

私たちは、ひとりひとりの子どもが自らの国や民族・文化に誇りを持ち、肯定的なアイデンティティを持てるような教育の環境づくりをめざし、総合的な教育支援を行う。これは、教育を受ける権利として、国籍や人種、民族等の違いにより差別されないという子どもの権利条約と SDGs に基づいている。

交流会事業 わーるどりんぐ交流会

参加対象は、佐賀県内の外国にルーツを持つ小・中学生、高校生、およびその家族。

外国にルーツを持つ子どもたちのエンパワメントをめざす。

佐賀大学ボランティアサークル「わーるどりんぐ」の学生が全面協力

佐賀市国際交流協会が協力、佐賀県教育委員会が後援

夏季 7/28(日) 8:30～13:30 本庄公民館

★アフリカから来て日本で育った星野ルネさんから話を聞こう

★星野ルネさんとふれあい体験をしよう

★サンドイッチを作って食べよう

参加人数； 子どもおよびその保護者 47 人、学生ボランティア、スタッフや会員の見学者など含めて、
総人数 85 人

ルーツの国； 中国、フィリピン、エチオピア、セネガル、メキシコ、アメリカ、インドネシア、バングラディッシュ、日本

参加内容と子どもたちの様子や感想；



カメルーン出身の漫画家の星野ルネさんがスペシャルゲスト。四歳から日本にきたというルネさんが、自身の体験を描いた漫画をもとに、体験談を語ってくれた。体験談の中では、孤島にいるように感じたこと、学校には天使のような子も悪魔のような子もいたことなど、つらかったことも語ってくれた上で、多文化共生の視点で、人と違っていてもいいという力強いメッセージをくれた。同じような思いをしている子どもたちには、とても共感できる話だった。

子どもたちは、感じたことをワークシートに書き、グループで話し合った。「孤島に一人にいるような実感、共感できた。同じような体験をした仲間がいることを知れたのは心強い」「星野さんも私と同じ経験をしていると聞いて、うれしかったです」「肌の色が違うからじろじろみられるということがたくさんあっていやだったことが、私と同じだった」「星野さんの生き方がかっこいいと思いました」「私も異国では同じ話題が友達とできなくて困りました」「クラスみんなが星野さんを助けてあげたところが心に残った」「いろいろな国の人がいてそれぞれの人の考え方が同じじゃなくていいと思いました」などである。質問タイムでは、「いじめられたことはありますか」「そのときどうしましたか」「国旗の意味は何ですか」などが出た。

そのあとは、カメルーンのおにごっこや世界のじゃんけん、日本の「だるまさんがころんだ」など、楽しく遊んだ。最後は、みんなでサンドイッチを作っておいしく食べた。

冬季 12/15(日) 8:30～13:30 本庄公民館

★世界の遊びをしよう

★いじめのない学校にするために考えよう

★ケーキ作りをしよう

参加人数； 子どもおよびその保護者40人、学生ボランティアやスタッフ、学校の先生方を含めて総人数 71 人
ルーツの国； 中国、タイ、韓国、ベトナム、フィリピン、バングディッシュ、ネパール、インドネシア、エチオピア、セネガル、日本

参加内容と子どもたちの様子や感想；

ベトナムの鬼ごっこや中国のへびのしっぽとり、アメリカのダックダックグース、ホットポテトなど、楽しく遊んだ。保護者さんも協力して遊びを教えてくれた。



いじめについては、最初に、いじめについての作文を Y さんが読んでくれた。いじめを許せないという思いがあふれていた。そのあと、いじめについての学習をおこなった。いじめはどんな特徴があるか、どれがいじめか、いじめを見たらどうするか、いじめられたらどうするか、考えて、グループワークをして各自発表した。感想は、「外国人だからいじめられても仕方がないと思っていたけど、いじめられるほうは悪くないということがわかった」「いじめられる側には、自分ではどうしようもない生まれつきのものがある。それは、間違っていると思う」「もしいじめられている人がいたら、やめろって言う」「もし自分がいじめられたら、先生や親に相談する」などが出た。

そのあと、みんなで楽しくケーキ作りをした。

春季 3/20 (祝・木) 8:30～13:30 本庄公民館、本庄公園

★みんなで遊ぼう

★インドネシア文化について学び、インドネシア料理を作ろう

★お花見に行こう

未定

学習支援事業 わーるどりんぐ放課後学習会

日時 ; 毎週水曜日の18時～20時 TOJIN 館 2階の和室にて実施

参加対象 ; 外国にルーツを持つ中学生と高校生（日本語指導対象者に限らない）

現在の参加者 中学生…インドネシア(1)、ネパール(1)、中国(4)、フィリピン(1)
高校生…中国(1)、ネパール(1)

学習支援員 ; 松下と、周先生、学生ボランティア14人。研修も定期的を実施。

<目的>

学力面…高校に進学できる学力をつける。高校を中退することなく卒業するためのサポートをする。

精神面…孤立感や葛藤を抱えている子どもにとって、居場所としてコミュニケーションの時間をとる。

<方針>

- 一人一人の個に応じた指導計画を立てる。マンツーマン指導をする。
- 受験生には、特別対策講座を実施する。
- パソコンやタブレットを使って、多様な教材を活用する。

<成果>

高校進学、大学進学の結果は、現時点では、未定



セミナー事業 多文化共生教育オンラインセミナー

目的 : 多文化共生教育について考える

日程 9月5日(木) 16時40分～18時

内容 : 星野ルネさん講演 演題「偏見を捨てて、違いを楽しもう！」

佐賀県の現状を事務局が基調提案

対象 : 学校教職員など 34人 そのうち佐賀県内は61.5%

内容と感想 :

偏った情報でラベリングしないこと、ステレオタイプで人を見ないこと、ひとりひとり人は違う、日本人の生徒たちも一人一人違いがあることを理解しようという内容であった。参加者はほぼ満足度100%であった。感想の一部を紹介する。課題は、佐賀県内の教職員の参加が少なかったことである。

- ・ 違いが前向きであれば、差別は起きないという言葉に感銘を受けました。最後の質問の回答で、新たなカメルーンCMの素敵どころが知れました。私は「人を通してしかその人の国を知らない」と思っていて、今日もこれに触れられたと思いました。ありがとうございました。
- ・ 大変、有意義なものでした。大人がよいロールモデルとなって、子どもたちにグローバルな視点を持たせることがいかに大事か、改めて考えさせられました。そのためには大人が学び続けたいといけないし、学ぶ機会があれば積極的に参加しようとする人がどんどん増えてほしいと思います。

相談支援事業

方針 ; 保護者の相談に応じる。学校との連携を強める。相談内容によっては、他団体とも連携する。

年間の相談件数 ; 20件

内容 ; 進路、国籍取得、いじめなど。保護者だけでなく、学校長や担任、国際交流協会とも連携した。

成果 ; それぞれの問題は解決した。

調査研究事業

昨年度末に引き続き、外国にルーツを持つ中学校卒業生の進路調査を行う。報告は次年度行う。